

育成を目指す資質・能力

（内容項目） A 主として自分自身に関すること 2 正直、誠実
「第5学年及び第6学年」 誠実に、明るい心で生活すること

（目標） 常に誠実に行動し、明るい心で生活しようとする態度を育てる。

ICT活用のポイント

授業支援ソフトの配信・共有機能により道徳的価値についての問題意識を高めたり、考えを深めたりする。

事例の概要

【事例におけるICTの活用場面①】

- 事前に授業支援ソフトで教師が作成したアンケートに回答する。
- 教師から提示されたアンケート結果から、道徳的価値についての問題意識を高める。

【事例におけるICTの活用場面②】

- 授業支援ソフトで中心発問についての考えを、立場を明らかにして記入し、教師に提出する。
- 教師への提出により共有された中心発問に対する友達の考えから、多面的・多角的に道徳的価値についての考えを深める。

【事例におけるICTの活用場面③】

- ノート（紙）に記入した振り返りを写真撮影し、授業支援ソフトで教師に提出する。
- 授業後に、提出された振り返りに教師がコメントを入れて、児童に返却する。

【導入】

1 問題意識をもつ

活用①

〔めあて〕

手品師はどんな心を大切にしたいのだろうか

【展開】

2 範読を聞く
3 道徳的価値についての考えを交流する

活用②

4 めあてについてもう一度考える

【終末】

5 振り返る

活用③

【道徳・小6・「せいじつに明るい心で」(教材名「手品師」) A 正直、誠実】②

【事例におけるICT活用の場面①】 <活用ソフト>授業支援ソフト <機能>アンケート作成及び回答・画面配信



わかりやすい

負担軽減

- 「今まで約束を守れなかったことがありますか」等の本時の道徳的価値(正直・誠実)に関するアンケートを事前に授業支援ソフトを活用して回答した。
- 教師から提示されたアンケート結果から、「なぜ約束を守らなければいけないのか」「誠実とはどのようなことなのか」等の問題意識を高めることができた。
- ☆デジタルのアンケートを活用することで、印刷・集計作業の手間がなくなる。また、手元の端末で結果を見ることができ、わかりやすさにつながる。今回は事前に実施したが、リアルタイムで実施することも可能である。

<活用ソフト>授業支援ソフト <機能>テキスト編集・提出・提出された回答一覧提示 【事例におけるICT活用の場面②】

- 「みなさんだったら大劇場への出演と、男の子との約束のどちらを選びますか」という中心発問に対して、立場を選び(男の子なら青のカード、大劇場なら赤のカード)、その理由を記入した。記入後、教師に提出した。
- 提出された回答の一覧から同じ立場や違う立場の考えを見ることができ、多面的・多角的に考えを深めることができた。
- ☆自分で見たい考えを自分で選ぶことで、情報をより主体的に収集することにつながる。

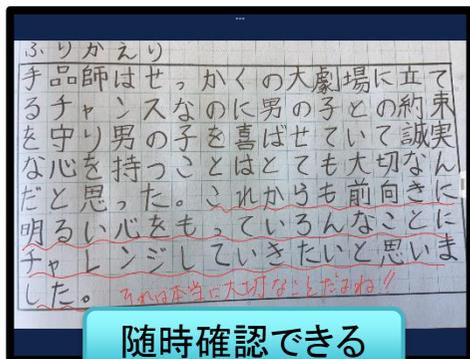
提出して考えを共有

<p>男の子との約束</p> <p>自分よりうでのすごい手品師はいると思うから男の子に手品を見せてあげた方が男の子も喜んでくれるし約束した。</p> <p>10月29日(金) 9:55</p>	<p>大劇場</p> <p>二度とないかもしれない。ずっと大劇場に立つのが夢だった</p> <p>10月29日(金) 9:55</p>
<p>男の子との約束</p> <p>約束をやぶるわけにいかないから。</p> <p>男の子がとても楽しみにしてくれているから。</p> <p>ひとりぼっちの男の子に元気になるってほしいから。</p> <p>10月29日(金) 9:55</p>	<p>大劇場</p> <p>二度とないチャンスを逃すわけにはいかない。</p> <p>この大劇場で結果を出して、売れっ子の手品師になりたい。</p> <p>友人が僕を推薦してくれたし、大劇場に出るのが自分の夢だったから。</p> <p>10月29日(金) 9:55</p>

考えを入力

主体的な情報収集

【事例におけるICT活用の場面③】 <活用ソフト>授業支援ソフト <機能>写真撮影・提出・回答へコメント・返却



随時確認できる

- 本時の道徳的価値(正直・誠実)に関する振り返りをノート(紙)に記入した。その後、ノートをICT端末で写真撮影し、授業支援ソフトで教師に提出した。
- 提出された振り返りに教師がコメントを入れ、児童に返却した。
- ☆デジタルで提出することで、手元にデータが残るため、返却前であってもデータを確認することができる。また、端末が家庭にあっても、教師からのフィードバックを受け取ることができる。オンラインで課題のやり取りを行うことも可能である。